

令和6年度資産運用状況について

林業退職金共済事業等勘定 給付経理

資産運用に当たっては、中小企業退職金共済法及び関係省令・告示並びに資産運用の基本方針に則り実施いたしました。林退共制度の安定的な運営及び健全性の向上に必要な運用収益を確保するため、最適な資産の組み合わせである基本ポートフォリオに沿った資産配分を行い運用を実施いたしました。

令和6年度の資産運用は、国内金利の上昇にともない国内債券の価格が下落したことや円高進行の影響で外国債券の収益が押し下げられたことを主因に、委託運用部分の利回りはマイナスとなりました。

令和6年度末の運用資産残高は157億74百万円となり、当期の運用収益は△137百万円、決算運用利回りは△0.86%となりました。

なお、当期純損失は2億61百万円、累積欠損金は1億45百万円を計上いたしました。

資産運用の内訳としては、自家運用は期末運用資産残高92億5百万円、運用収益22百万円（費用控除後）、決算運用利回りは0.24%となりました。

委託運用は期末運用資産残高65億69百万円、運用収益△1億59百万円（費用控除後）、決算運用利回りは△2.37%となりました。

委託運用のうち包括信託に係るパフォーマンスは、資産別にみると国内債券・国内株式・外国債券がベンチマークを上回り、外国株式はベンチマークを下回りました。

超過収益率の合計は0.03%となりました。

資 産 運 用 状 況

▶令和6年度の資産運用状況は、下表のとおりです。

(単位：百万円)

運用の方法等		資産額	構成比	運用収入 ①	運用費用 ②	運用収益 ①－②	決算運用 利回り	
自 家 運 用	有 価 証 券	国 債	2,154	13.66%	12	-	12	0.65%
		政 府 保 証 債	5,601	35.51%	10	-	10	0.17%
		計	7,755	49.16%	22	-	22	0.27%
	預 金	短 期 運 用	-	-	-	-	-	-
		普 通 預 金	1,450	9.19%	0	-	0	0.02%
		計	1,450	9.19%	0	-	0	0.02%
	計	9,205 <9,255>	58.36%	22	-	22	0.24%	
委 託 運 用		包 括 信 託	6,569 <6,723>	41.64%	-	159	△ 159	△ 2.37%
	合 計	15,774 <15,979>	100.00%	22	159	△ 137	△ 0.86%	

- (注) 1. 資産額の<>内の金額は、平均残高である。
 2. 決算運用利回りは、運用収益を平均残高で除した数値である。
 3. 包括信託の資産額及び運用収入は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に林退共資産の保有口数を乗じて算出した額である。
 4. 包括信託の会計文書の勘定科目名は金銭信託である。
 5. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

運用収益及び決算運用利回りの推移

➤ 過去5年間の運用収益及び決算運用利回りの推移は下表のとおりです。

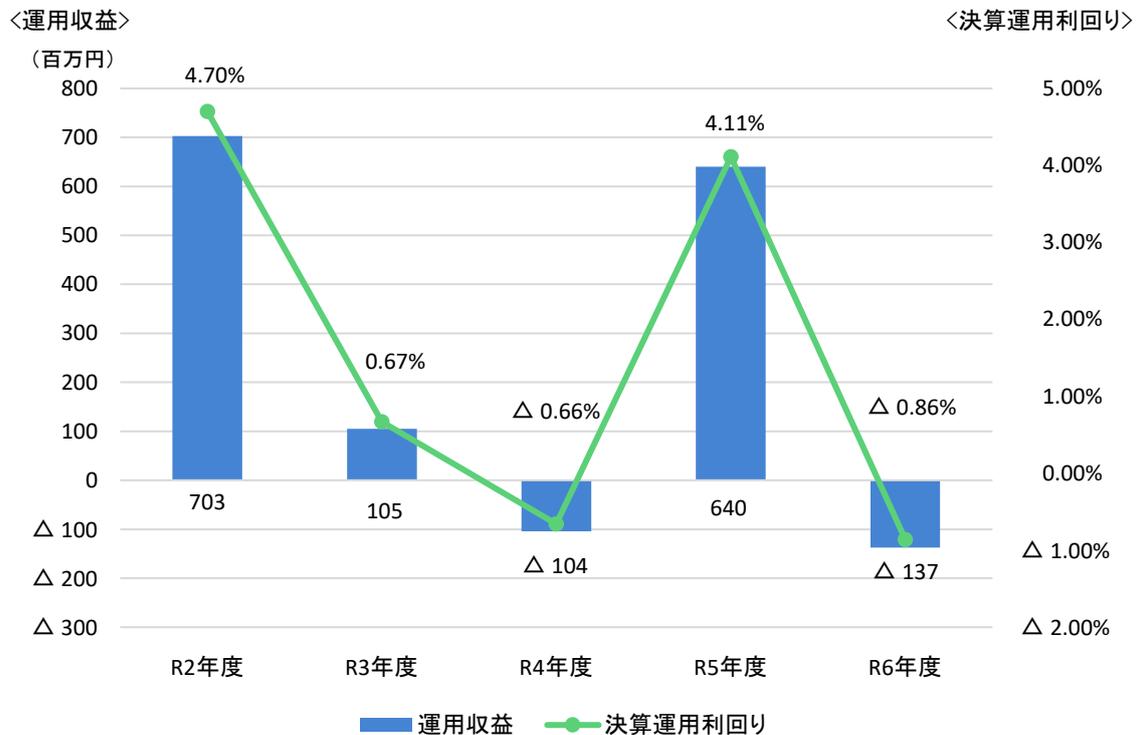
(単位：百万円)

運用の方法等		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
自家運用	有価証券	35	29	23	20	22
	預金	-	-	-	0	0
	計	35	29	23	20	22
運用委託	包括信託	668	76	△ 127	620	△ 159
運用収益の合計		703	105	△ 104	640	△ 137

決算運用利回り	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	4.70%	0.67%	△ 0.66%	4.11%	△ 0.86%

- (注) 1. 運用収益は費用控除後の額である。
 2. 包括信託の運用収益は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に林退共資産の保有口数を乗じて算出した額である。
 3. 包括信託の会計文書の勘定科目名は金銭信託である。
 4. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

運用収益及び決算運用利回りの推移



自家運用資産の構成状況

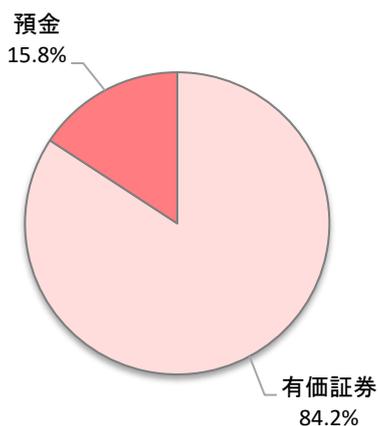
➤ 自家運用は、元本の償還や利払いが確実な政府保証債を中心に運用し、令和6年度末の資産額は92億5百万円で、政府保証債の割合は60.8%となっています。

(単位:百万円)

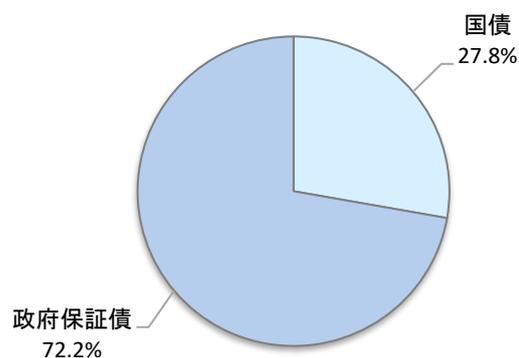
運用の方法等		資産額	構成比	有価証券構成比	
自家運用	有価証券	国債	2,154	23.4%	27.8%
		政府保証債	5,601	60.8%	72.2%
		計	7,755	84.2%	100.0%
	預金	短期運用	-	-	
		普通預金	1,450	15.8%	
		計	1,450	15.8%	
合計		9,205	100.0%		

(注) 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

自家運用構成比



有価証券構成比



委託運用資産の構成状況

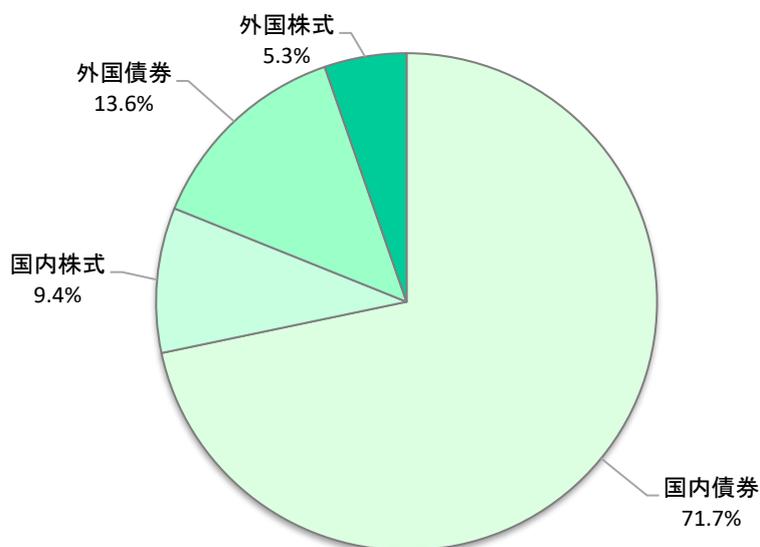
➤令和6年度末の委託運用のうち、包括信託は、銀行(3社)及び投資顧問会社(14社)に運用を委託し、資産額は65億69百万円となっています。

(単位：百万円)

運用の方法等			資産額	包括信託 構成比
委 託 運 用	包 括 信 託	国内債券	4,709	71.7%
		国内株式	620	9.4%
		外国債券	891	13.6%
		外国株式	348	5.3%
		計	6,569	100.0%

- (注) 1. 包括信託の資産額は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に林退共資産の保有口数を乗じて算出した額である。
 2. 包括信託の会計文書の勘定科目名は金銭信託である。
 3. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

包括信託構成比



包括信託の収益率

> 令和6年度は、委託運用資産のうち包括信託の収益率（時間加重収益率）は、資産別にみると国内債券・国内株式・外国債券がベンチマークを上回り、外国株式はベンチマークを下回りました。
 また、時間加重収益率の資産合計は $\Delta 2.28\%$ 、超過収益率の合計は 0.03% となりました。

資産区分		時間加重収益率	ベンチマーク騰落率	超過収益率
包括信託	国内債券	$\Delta 4.57\%$	$\Delta 4.73\%$	0.16%
	国内株式	$\Delta 1.08\%$	$\Delta 1.55\%$	0.46%
	外国債券	$\Delta 5.26\%$	$\Delta 5.33\%$	0.07%
	外国株式	4.55%	6.82%	$\Delta 2.27\%$
	合計	$\Delta 2.28\%$	$\Delta 2.31\%$	0.03%

(注) 1. 各資産のベンチマークは以下の通りである。

国内債券：NOMURA-BPI総合

国内株式：TOPIX（配当込み）

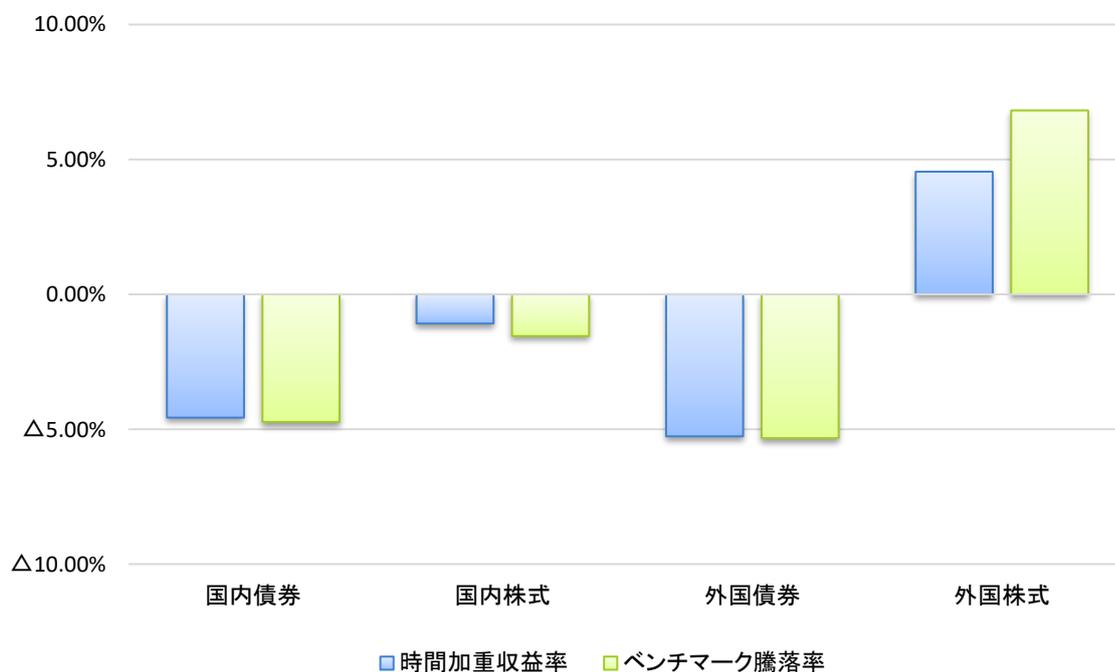
外国債券：《6月まで》FTSE世界国債インデックス（除く日本、除く中国、円ヘッジ・円ベース）

：《7月以降》FTSE世界国債インデックス（除く日本、除く中国、円ベース）

外国株式：MSCI KOKUSAI（円ベース、配当込み、GROSS）

2. 包括信託の会計文書の勘定科目名は金銭信託である。

包括信託の収益率



運用資産の構成状況

➤ 令和6年度末の資産構成状況は基本ポートフォリオに定める資産配分に対する乖離許容幅の範囲内を維持しました。

(単位：百万円)

資産区分		基本ポートフォリオ	資産額	資産構成比
自家運用		60.8%	9,205	58.4%
委託運用	国内債券	28.4%	4,709	29.9%
	国内株式	3.6%	620	3.9%
	外国債券	5.4%	891	5.7%
	外国株式	1.8%	348	2.2%
	委託運用小計	39.2%	6,569	41.6%
合計		100.0%	15,774	100.0%

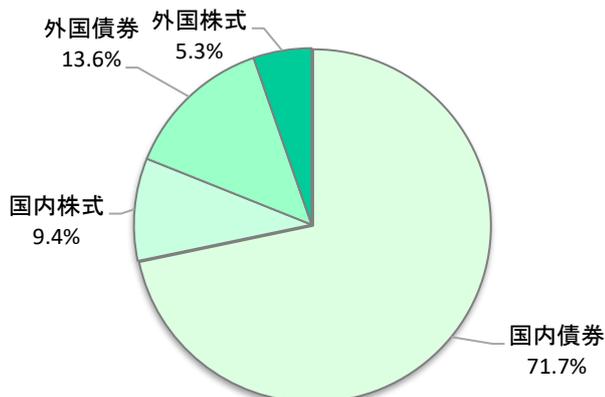
- (注) 1. 自家運用(簿価)は、国内債券(簿価)のほか短期資産を含んでおり、委託運用は包括信託のみである。
 2. 委託運用の資産額は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に林退共資産の保有口数を乗じて算出した額である。
 3. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

うち委託運用部分と乖離許容幅

資産区分	基本ポートフォリオ	資産構成比	乖離許容幅	乖離状況
国内債券	72.4%	71.7%	±3.6%	△ 0.7%
国内株式	9.3%	9.4%	±2.3%	0.1%
外国債券	13.7%	13.6%	±1.7%	△ 0.1%
外国株式	4.6%	5.3%	±1.3%	0.7%
計	100.0%	100.0%	—	—

(注) 令和6年7月に基本ポートフォリオを改定している。

資産構成比(委託運用部分)



基本ポートフォリオ乖離状況(委託運用部分)

